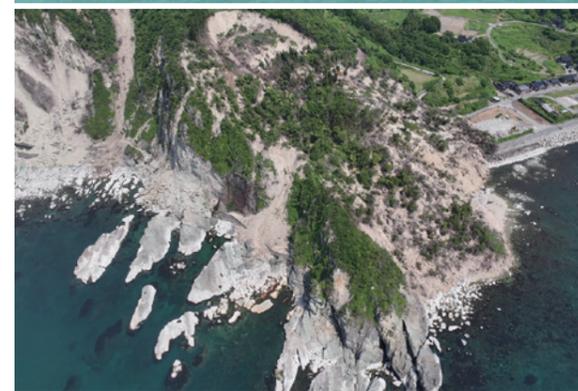


▲ 輪島中学校グラウンド崩落



▲ 周辺道路に流出したグラウンドの土砂



▲ 復旧前

▲ 国道249号逢坂トンネル 復旧後

会員各社名

青木あすなる建設(株)	オリエンタル白石(株)	第一建設工業(株)	東洋建設(株)	(株)北都組
あおみ建設(株)	(株)加賀田組	大成建設(株)	戸田建設(株)	(株)本間組
(株)浅沼組	鹿島建設(株)	大成ロテック(株)	飛鳥建設(株)	前田建設工業(株)
(株)安藤・間	(株)熊谷組	大日本土木(株)	(株)NIPPO	(株)丸山工務所
石黒建設(株)	(株)鴻池組	大豊建設(株)	西松建設(株)	三井住友建設(株)
岩田地崎建設(株)	五洋建設(株)	(株)竹中土木	日特建設(株)	みらい建設工業(株)
(株)植木組	佐藤工業(株)	鉄建建設(株)	日本国土開発(株)	名工建設(株)
(株)大林組	清水建設(株)	東亜建設工業(株)	(株)福田組	りんかい日産建設(株)
(株)大本組	ショーボンド建設(株)	東急建設(株)	(株)フジタ	若築建設(株)
(株)奥村組	(株)銭高組	東鉄工業(株)	(株)不動テトラ	(49社)



発行 一般社団法人 日本建設業連合会 北陸支部 広報委員会
〒950-0965 新潟市中央区新光町6番地1(興和ビル7F) TEL(025)285-8886

印刷 新潟中央印刷

2025.3.25 発行

CONTENTS

随想
「安全、安心な高速道路サービス
提供に向けた取組」————— 1

特集①
対談
北陸の活力ある地域づくりについて—— 2

特集②
日建連北陸支部会員の
能登半島における活動経過報告—— 11

特集③
親子工事見学会————— 14

特集④
市民現場見学会————— 15
現場で輝くけんせつ小町
「現場から頼られる
女性技術者を目指す」————— 17

若手技術者の現場紹介————— 19

私のプライベートタイム
「生まれも育ちも北陸人」————— 21

日建連北陸支部の活動
能登半島地震を踏まえ、
防災・減災に向けた地域づくりを考える— 22

対談



北陸地方整備局長

高松 諭

Satoshi Takamatsu

日本建設業連合会北陸支部長

木村 淳二

Junji Kimura

■日時／2025年1月14日(火) 13:00～ ■場所／白山会館1階「羽衣」

今回は、昨年7月に就任された北陸地方整備局長 高松諭氏と日建連北陸支部長 木村淳二氏による対談です。局長ご就任以来6ヶ月を経たのご感想や、北陸の地域づくり、担い手確保についてお話を伺いました。

高松 諭氏 | 略歴

平成 5年 4月	建設省 採用
平成14年 4月	国土交通省 中部地方整備局 企画部 企画課長
令和 2年 6月	同 関東地方整備局 道路部長
令和 4年 6月	同 道路局 環境安全・防災課長
令和 5年 7月	同 同 国道・技術課長
令和 6年 7月	現職

対談要旨

- ①北陸地方整備局長ご就任6ヶ月を振り返って
- ②2024年度補正予算、2025年度予算について
- ③北陸の活力ある地域づくりについて (i-Constructionの普及・推進)
- ④担い手確保に向けた建設技能者の処遇改善と働き方改革(週休二日実現・建設キャリアアップシステム普及促進)について
- ⑤建設界の広報活動について
- ⑥日本建設業連合会等への要望について
- ⑦災害対応について
- ⑧おわりに

随想

ZUISOU

「安全、安心な高速道路 サービス提供に向けた取組」

東日本高速道路株式会社
執行役員 新潟支社長
佐久間 仁
Hitoshi Sakuma



NEXCO東日本 新潟支社の事業につきましては、平素より格別のご高配を賜り厚く御礼申し上げます。

昨年は1月1日に能登地方で大きな地震があり、被災された方には心よりお見舞いを申し上げます。弊社新潟支社管内の高速道路では北陸道において、地震による被害が発生いたしました。その後復旧作業に着手し、被災地救援のための応急復旧を発災から概ね24時間で終え、一般車両へ交通開放致しました。

このことは、平成7年1月に発生した阪神淡路大震災以降、国のご指導の下、取り組んできた耐震補強事業の結果であると感じております。また、今後の災害発生に備え、高速道路のリダンダンシー機能を高める上でも、現在取り組んでおります磐越道の4車線化事業の重要性を再認識した次第です。

弊社の高速道路事業におきまして重要なことは、弊社の経営方針にもなっておりますが、お客さまに安全・安心な高速道路空間を提供することを現場で実践することと考えております。今後も大規模地震、異常気象等に備えた対策を適切に講じ、交通の安全確保に努めて参ります。

現在、NEXCO東日本 新潟支社におきましては、こうした視点を踏まえ、様々な事業を展開しております。当支社管内においては、供用開始から30年以上経過する構造物が約6割(令和6年12月現在)を占めてきており、現在リニューアルプロジェクト事業の他、関越ト

ンネル等の老朽化施設の更新工事にも着手しております。

リニューアル事業の主な進捗のうち、橋梁とトンネルをご紹介しますと、橋梁の床版取替については昨年度までに12橋が完了し、今年度中に3橋が完了予定です。トンネルインバート設置工事については、昨年度までに3本のトンネルが完了しております。

また、建設事業は、磐越道において安田IC～三川IC間と津川IC～西会津IC間で4車線化等の事業が実施中であり、令和6年3月に事業許可を受けた津川IC～西会津IC間の8.7kmを加えた、合計37.3kmの事業を進めております。

これらの事業を円滑に進めていくためには、工事を実施して頂く受注者の皆さまとの連携が極めて重要となりま

す。2024年4月から建設業の時間外労働の上限規制(いわゆる、建設業の2024年問題)が適用となり、長時間労働の是正が急務であるとの業界団体からのご要望もあったことから、受発注者双方の視点から効果的な業務効率化、省力化について意見交換を行い、「適正な工期の設定」「提出書類の軽減」「施工管理の効率化・省力化」「設計図書の品質向上」等の観点での取組を行っているところです。

以上、現在当支社が実施している事業の概況について述べさせていただきましたが、今後も事業の着実な進捗に向け、当社グループ、工事受注者の皆さまと一丸となって全力で取り組んで参りますので、引き続きご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。



①北陸地方整備局長 ご就任6ヶ月を振り返って

(日本建設業連合会北陸支部長)

高松局長様におかれましては、ご就任されて約6ヶ月が過ぎたところですが、この間に、地域の知事、自治体首長さんや建設業界の方々から様々なご意見やご要望をお聞きされていることと思います。この間を振り返って頂いて、北陸地域のご印象などをお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

非常に大変な時期に着任しましたが、あっという間に半年が過ぎた感じです。昨年1月1日の「令和6年能登半島地震」発災直後から、日本建設業連合会及び会員企業の皆様方には新年早々から、お正月返上で真っ先に現地に入らせていただき、啓開作業に着手いただいたことに改めて感謝申し上げます。

私は富山県出身ですので、冬季になって北陸の気象状況は、こういう天気だったなというのを久しぶりに思い出しました。冬場の施工においては、非常に厳しい地域であり、一方で自然に恵まれている、また、日本の中央部であり、交通の利便性が一定程度備わっているところですが、北陸地域を移動していると、本局から富山県庁まで3時間、石川県庁までは4時間かかる中で、時間距離をさらに縮めることができないのかと考えているところですが、新幹線も東京に住んでいると新潟も富山も金沢も2時間から2時間半で行けることから、非常に便利ですが、いざこの地域を縦断方向に動こうとするときは、まだ制約があります。加えて、国土交通省では、道路は新潟、富山、石川の3県を県境で分けて担当していますが、日本海側に向けて流れる河川の水系管理や砂防、港湾を加えると山形、福島、長野、岐阜、さらに福井の8県に跨っている広いエリアかつ自然条件の厳しいエリアを管理していることから、改めてこの地域の社会資本整備の役割を認識させていただいたところです。

日本の中央部であり、単独あるいは関係する地域と連携しながら、他の地域に打って出る、あるいはインバウンドを喚起

することを考えれば、まだまだポテンシャルを活かしながら整備していくという観点では、このエリアをどう見せていくかということをよく考えていかなければならないと思っています。

(日本建設業連合会北陸支部長)

私は入社以来、ほとんど北陸地域での勤務であり、地域の皆様にお世話になっています。

また、現場は新潟県の補助ダム、奥三面ダム、奥胎内ダムを担当させていただきました。一昨年の県北の豪雨の際も、総貯水量は1億2,000万トンの奥三面ダムにより洪水調整ができて、村上地域の被害が少なく済んでよかったと思っています。

昨日も宮崎で地震がありました。今後、南海トラフ地震や首都直下型地震を考えると、日本海側のバイパス機能、補完機能維持のため、日建連北陸支部の会員会社とともに、北陸地方の社会資本の整備・強靱化に貢献していきたいと考えています。

(北陸地方整備局長)

治水の面でも非常に厳しいエリアであり、一定程度の整備が進められてきましたが、まだまだこれからという事業もあります。私も富山市内に住んでおりましたが、例えば、常願寺川の砂防事業が、富山平野を守っているということは大事な話であり、今の若い方々にきちんとご理解いただけているのかという心配もあります。足りないとすれば、ご理解を深めていただくよう努めなければなりませんと思っています。

②2024年度補正予算、 2025年度予算について

(日本建設業連合会北陸支部長)

『防災・減災、国土強靱化のための5か年加速化対策』の着実な推進と計画的なインフラの更新が進められているとともに、「5か年加速化対策」後の「国土強靱化実施中期計画」が法制化され、新たな計画が策定されることとなっております。

来年度の公共事業関係費につきましては、今年度補正予算が12月17日に成立するとともに、来年度予算が12月27日に

閣議決定されたところです。

そういった中、2024年1月1日に発災した「令和6年能登半島地震」をはじめとし、9月の同地区における豪雨による災害など、自然災害は激甚化、頻発化しています。

また、原材料及び原油等の価格高騰や円安の影響を受けて、建設工事の資材価格が高騰し、厳しい経済情勢が続いているところですが、日本経済を支える屋台骨として、盤石なインフラが不可欠であり、今後も安定的・持続的に予算措置されるとともに「5か年加速化対策」を上回る「国土強靱化実施中期計画」予算の措置が望まれております。

日建連北陸支部においても「能登半島」の応急緊急復旧や本復旧工事に全力を挙げて取り組んでいるところですが、今後の本復旧に向けた方針などについてお聞かせください。

また、主要なプロジェクトである大河津分水路の改修事業や日沿道建設事業、利賀ダム建設事業などの今後の予定などについてお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

昨年12月17日に補正予算が成立し、例年よりも遅れましたが12月27日に令和7年度の当初予算の政府案が閣議決定されたという状況です。これまで6回にわたり予備費として機動的に復旧対応を取ってきましたが、補正予算という形で復旧関係あるいは生産性の向上も含めて、先を見据えた予算が措置されたと思います。また、当初予算については、1,000の予算という形となっています。

補正予算の執行については、能登半島の復旧が入っていますが、1月1日の地震によって、亡くなられた方々に改めてお悔やみを申し上げますとともに被災された方にお見舞い申し上げます。これまでも予備費を活用して、発災から1年という節目を一定程度の目標とし、そこまでに何をやっていくかをお示ししながら、大きなところでいえば、石川県管理であった国道249号の門前から珠洲までの間を権限代行とし、一部迂回しなければならぬ箇所はありますが、緊急車両、地元の車両に限った部分で門前から一気通貫で珠

洲まで向かうネットワーク構築を進め、12月27日に通れるようになりました。

しかし、残念ながら9月21日に奥能登を中心とした大雨により、中屋トンネルも含めてその前後を通すということで進めていましたが、迂回が必要となる状況となりました。また、大雨により現場の作業員の方が1名亡くなられたという痛ましいこともありましたが、地域にとっては、1年経ったときにどのように通れるのかということに関心があり、目標どおり進めることができましたと思っています。その他の河川や港湾関係、砂防関係についても、日建連の皆様方のお力添えもいただきながら、応急復旧あるいは今年度の出水期に向けた暫定の形、また、港の復旧方針も出したところですが、能登半島の広域道路ネットワークについても12月に学識者や関係機関で構成されます検討会を設置し、地域の将来計画を踏まえた道路のサービスレベルの確保、道路ネットワークの機能強化等に関する検討に着手したという状況です。

特に、9月21日の大雨を経て権限代行という形で応急復旧を進め、11月29日には本格復旧を権限代行として対応することとなり、今後、具体化すべく、順次検討を開始しているという状況です。

こういった作業をする中で、日建連の皆様方にもご協力いただくことになりますが、地域の活力を一定程度確保するという観点で、復旧・復興JVや地域維持型JVも活用させていただき、建設業に携わる皆様方の力を最大限活用させていただきながら、本格復旧をより加速させていくため、新しい制度なども設けながら進めている状況です。

国土強靱化予算は、今年度の補正で5年間の最終となりますが、次の実施中期計画を早く策定してもらいたいという日建連からのご要望もあるところです。3か年緊急対策と5か年加速化対策を合わせて8年分が措置されましたが、その成果を示しながら、全国的に整備しつつ、次の実施中期計画の策定を着実に進めていかなければならないと思っています。地方の首長の皆さん方は、地域住民の安全と安心を守っておられるので、そういった方々から政府全体へ要望していただくこ

とも大事ですし、それを作業される日建連の皆様方もおられ、世の中にアピールしながら次の大事な防災・減災、国土強靱化の実施中期計画を早期に着実に策定しなければなりませんと思っています。

具体的には、主要プロジェクトとしては利賀ダムの建設事業があり、富山県の西部を流れる庄川エリアの治水の安全度向上のため、平成5年に事業着手して31年目となりましたが、今年度本体着工しているところですが、今年度本水水位を下げることが地域の安全度を向上させるといことが地域につなげられます。私も入省2年目に関東の宮ヶ瀬ダム建設事業に携わったことがあり、時間もかかる事業でありますし、一方で、地元のご理解をいただかなければいけない事業ですので、地域との信頼関係を確保しながら、着実に一歩

歩進めていかなければならないと思っています。

治水関係ではもう一つ代表的なものとして、信濃川の大河津分水路の令和の大改修を着実に進めており、今年度で10年目を迎えています。山地部の掘削や床固工事、橋の架替を計画的かつ効率よく進めていかなければならないと思っています。そういった中で、ICTを最大限活用して施工支援の向上につなげ、土日の休みを確保していただきたいと思います。工期も一日休んだからその分を延ばすという形ではなくて、それを吸収できるような形で、色々な技術にチャレンジしていくことが重要だと思っていますので、お力添えいただきたいと思います。

道路関係では、富山、石川までは高速道路もつながり、磐越自動車道も4車化の



国道7号 朝日温海道路



4号トンネルの施工状況



猿沢地区改良工事の施工状況

利賀ダム建設事業(庄川水系利賀川)



- ・ダム本体の施工は、まずダム本体の基礎となる十分な強度の岩盤まで掘削を行います。
- ・掘削が完了したのち、コンクリート打設にあたってはRCD工法+拡張レヤ工法で進めます。
- ・コンクリート打設は冬期休止を含め約4年間行います。

作業を進めつつありますが、朝日温海道路は平成25年度に着手し、現在、全線40.8キロにわたって事業化している最中で、まだ山形県境につながっていないという状況です。トンネルや橋梁が多くある中で、日建連の皆様方にも作業に携わっていただけてトンネル工事等を中心に進め

ている状況です。

また、能登半島に向かう輪島道路Ⅱ期工事も平成24年度に事業着手し、全長11.5キロの整備を進めています。金沢市内では金沢環状道路の整備を順次進めている状況です。輪島道路については、北側3分の1くらいに非常に険しい

山々がありますが、これがもしできていれば、今回の地震災害においても輪島につながる道路がもう少し早く啓開できたと思いますので、しっかりと輪島道路が早期につながるよう進めていきたいと思っています。

(日本建設業連合会北陸支部長)

日建連北陸支部としても、少しでも被災地域のお役に立てるよう、現在も権限代行工事や、石川県から発注された復旧工事に取り組んでいるところです。

また、WTO案件で採用されている地域維持型JVについても今後施工が本格化しますが、地域の状況を見極めた柔軟な運用をお願いします。また、復旧・復興を加速化するために、事業促進PPPによりコンサルや建設会社の民間のノウハウ・技術力を事業促進に活かしていきたいとお話も伺っております。日建連支部の会員各社としても地域JVを活用しつつ、積極的に参画し、地域の復興に貢献していきたいと考えております。今後とも、石川県建設協会の皆さんと連携して、復旧・復興に取り組んでまいりますので、ご指導宜しくお願いします。

日本海側のバイパス機能や首都圏の補完機能ということについては、道路がしっかりと確保できているということが重要かと考えていますので、引き続き事業を進めていただきますようお願いいたします。

(北陸地方整備局長)

現場の作業は、冬の雪や波など厳しい状況下になりますが、くれぐれも現場の作業員の皆様方の安全や健康管理をよろしく願います。現場に行くために長時間通勤されている会社もあると思いますが、体あつての作業ですので、よろしく願います。

(日本建設業連合会北陸支部長)

冬季間は雪や風雨で作業が止まることもあると思いますが、過酷な環境であり、無理をすることなく、安全第一で工事を進めるとともに、工程を遅らせることのないように、しっかりとやっていきたいと思っています。

③北陸の活力ある地域づくりについて (i-Constructionの普及・推進)

(日本建設業連合会北陸支部長)

北陸地方整備局様では、令和3年8月に「北陸ブロックにおける社会資本整備重点計画」(R4.8.31決定:R3~R7計画期間)が策定されました。6つの基本戦略を設定し北陸の活力ある地域づくりが進められるものと承知しております。また、インフラ分野においてもデータとデジタルを活用したDXの取組にご尽力をいただき、直轄土木工事においてBIM/CIMの適用が始まり、計画・施工・管理段階の情報一元化への活用にも取り組んでいただいているところです。

また、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、現場においても監督・検査の遠隔化など、非接触・リモート型の働き方への転換の取り組みを進めていただくとともに、「工事書類スリム化ガイド」を策定いただき、現場における働き方改革を進めていただいているところです。建設業界といたしましても、働き方改革、生産性向上につながる新技術や新工法の活用に努め、建設業界の維持・発展につなげていくことが重要と考えております。

今後の現場における生産性向上に向けた新たな取り組みなどについてお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

建設業界の大きな目標である働き方改革や生産性向上は非常に重要であり、3Dデータを活用し、施工手順の確認や地元説明、工事の広報活動、安全教育といった各所の分野で取組を進めているところです。整備局全体ではICT活用土工事自体の発注が、昨年10月末時点で約84%となっている状況です。日建連の皆様方は、最先端技術を用いて進められている部分、また、平均的な技術で進めていただいているところもあると思いますが、各県の建設業協会の皆さんも含め、最先端技術と平均的に底上げしていかなければいけない部分の両方で進めることが大事だと思っています。日建連の方々には、業界を引っ張っていただく

ことや、業界全体を底上げしていただくことに期待しています。各種の取組を進めていくことが大事だと思っていますし、進めるに当たって制約になるようなことがあれば、お聞かせいただいて、さらに加速していきたいと思っています。

自然条件が厳しいこの北陸地域で、冬期降雪期間の施工性の確保については、作業ができる日にいかに効率よく仕事をしていただくかが大事になってくると思いますので、引き続きしっかりと進めて行けるような施策をとってきたいと思っています。

現場の、工事検査の過程での遠隔臨場の活用や「工事書類スリム化ガイド」といった取組を進めていくことが大事だと思っていますので、引き続きよろしくお願ひしたいと思います。また、よいご提案があれば、それに沿った形で進めていきたいと思っています。

(日本建設業連合会北陸支部長)

建設DXの推進については、担い手確保や作業の効率化の観点から、絶対に必要だと思っています。一方で、能登半島地震において発災直後から道路啓開にあたっては、通信環境が使えないか、作業効率に大きく影響してくると思っています。今回の地震では、各通信設備のバックアップ機能が1日しか持たず、苦勞した部分があります。データ通信環境の強靱化を図っていくことが今後の地震災害などに備えるため、重要になると思いますので、国交省様におかれましても、NTT等の各通信会社に強靱化に向けた働きかけを行っていただければ有難いと思っています。

先端技術の開発や建設DXの個別活用は、第一義的には各社で取組むべき事項であり、日建連が前面に立って取組むことは難しい部分がありますが、工事の施工を通じて協力会社にも展開し、建設業界としての底上げを図って参ります。特に、省人化、省力化は重要な課題と認識しておりますので、積極的に展開していきたいと考えています。

建設DXでの共有化、汎用化については、建設業にとっても重要な事項ですので、今後とも仕様の統一等について、意見交換会等において協議を継続願います。

(北陸地方整備局長)

砂防の現場では携帯の電波が届かないところもあり、GNSSでその現場の中に座標を固定するやり方をとっている事例もあると聞いています。最先端の取組を競争する部分と、横展開する部分を生産性向上や働き方改革につなげられるよう、そういったことも意識しながら取り組んでいきたいと思っています。

④担い手確保に向けた建設技能者の処遇改善と働き方改革(週休二日実現・建設キャリアアップシステム普及促進)について

(日本建設業連合会北陸支部長)

私どもの建設業界におきましても、政府による積極的な施策のもと、建設事業の着実な遂行に加え、「働き方改革」と「生産性向上」を強力に推進し、担い手の世代交代に確固たる道筋をつける必要に迫られている状況にあります。このため、日建連では、「建設キャリアアップシステムの普及・推進」と「週休二日の実現」に業界の命運をかけて取り組んでいるところです。

建設キャリアアップシステムにつきましては、建設技能者の保有資格、保険の加入状況、現場の就業履歴等を業界横断的に登録・蓄積することにより、技能者が能力や経験に応じた処遇を受けられる環境を整備することで、将来にわたって建設業の担い手を確保することを目的としております。整備局様におかれましては、支出負担行為担当が発注されるすべての一般土木工事(WTO対象工事)においてモデル工事を実施していただく他、分任支出負担行為担当が発注される工事においてもモデル工事を実施いただいておりますが、建設技能者の処遇改善にもつながるこのシステムの普及・推進に、引き続きご理解とご協力をいただきますようお願いいたします。

また、週休二日につきましては、整備局様におかれましては、令和6年度工事から、原則全ての工事において発注者指定工事で毎週土曜・日曜を「現場閉所の統一日」として設定していただいているところであり、民間発注工事への普及・促進においても加速させることができるもの

と考えております。日建連においても、「目指せ!建設現場 土日統一斉閉所」運動などにより、今年度末までに4週8閉所以上の100%達成に全力を挙げて取り組んでいるところです。時間外労働の上限規制への適合については、民間発注者にも週休2日工事の重要性・必要性に関する理解を深めていただくための説明と、週休2日工事を前提とした工期が確保された契約の締結を推進することが重要と考えておりますが、整備局様の今後の具体的な取り組みがございましたらお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

建設キャリアアップシステムについては、本官契約は原則すべての工事を義務化モデル工事としていますが、進めていく中でいろいろな課題もあると思います。技能者のレベル評価や労務費調査との連携、技術者レベルを反映した手当支給の普及など、その能力や業績の取り扱いについて、メリット・デメリットを示し、しっかり説明できることが重要だと思います。制度を整えるだけでなく、導入してよかったと言える制度にしていかなければいけないと考えていますので、引き続きのご協力をお願いしたいと思います。

現場の安全については、当然のことながら、安全な現場は働き方改革や担い手確保の観点からも非常に重要な取り組みですので、これも引き続きよろしく申し上げます。

週休二日の取り組みは、今年度も整備局では力を入れてやってきたところですが、「週休二日適正工期発注者宣言」や「週休二日取組企業宣言」のロゴマークやポスターを作成し、週休二日工事の拡大を図ってきています。一方で、言葉だけで厳格にやることでよいとは思いませんし、週休日を取ることで、そのまま工期を延伸するというでもないと思います。本来の目的である働き方改革や担い手の確保につながるよう、引き続き全体で進めていくため、もう少し工夫が必要になると思っています。厳しい自然環境の中で、土日を休むことも大事ですし、一方で、全体の工期を短くして、現場代理人の皆様方が早く次の現場に動くということも大事

ですので、整備局としても力を入れてやっていかなければならないと思います。よい取り組みが地方公共団体の皆様方にも展開でき、かつ民間の発注の皆様方にも展開できるようなことも併せて目指して、努力していかなければならないと思いますので、引き続きよろしく申し上げます。

(日本建設業連合会北陸支部長)

建設キャリアアップシステムについては、事業者登録、技能者登録ともに着実に増えており、引続き協力会社さんへの登録推進を啓蒙・指導してまいります。また、技能レベルの種別に応じた処遇についても、給与額ともある程度、連動させて、CCUSのメリットが実感できるよう、協力会社の事業主に働きかけを行ってまいります。

安全については、建設業の全産業に対する休業災害の割合は約10%強に対し、死亡災害の割合は約30%強まで跳ね上がります。これは、残念ながら建設現場では事故が重大災害につながるリスクが大きいことを示しています。当社の北陸支店では「安全無くして、仕事なし」をスローガンとして「安全が第一」、「妥協・見逃しのない安全管理・安全作業」の意識を関係者全員が共有するように指導しております。日建連会員各社においても、それぞれに安全確保に取り組んでいるところですが、災害件数、死亡事故件数の減少につながるよう、支部の安全関係の委員会での安全推進活動に取り組んでまいります。

休日の確保については、日建連としては民間の建築工事についても、原則4週8閉所を原則とした工程、見積り金額を提示することをルール化しており、各発注者様のご理解をいただけるケースが多くなっています。これも、国交省様が週休2日、4週8閉所の推進を先頭に立って取り組んでいただいたおかげと、感謝しています。時間外労働上限規制遵守、担い手確保のためには、週休2日が必須条件かと考えていますので、今後ともご指導宜しくお願いいたします。

(北陸地方整備局長)

現場の安全については、現場の方が亡くられることがあると、周辺の皆さん

方にご心配をかける、あるいは土木技術に対する信頼性を損なうという面からも、現場において努力を続けなければならないと改めて思います。

令和5年7月6日に静岡で桁の落下事故がありましたが、その際に業界全体にも事故防止検討をしていただきました。建設DX(デジタルトランスフォーメーション)を最大限取り込んで、例えば、危険が生じる懸念が出たときにアラームを鳴らすなどの取り組みをしていただきたいと思います。そのためにも、DX技術を広めていく手はあると思いますので、引き続きよろしく申し上げます。

(日本建設業連合会北陸支部長)

最近では危険行為をAIで判定するということも進んできており、人が少ない中でもしっかり安全管理することは重要かと思えますので、建設業界としてもしっかり対応していきたいと思えます。

⑤建設界の広報活動について

(日本建設業連合会北陸支部長)

日建連の北陸支部では、安全・安心な国土づくりに資するために、社会資本整備の意義や重要性について、一層の理解を得るため、積極的な情報発信に努めているところです。令和3年度に「社会資本整備の重要性に関するシンポジウム」を北陸地方整備局様のご後援をいただき、新潟県商工会議所連合会と共催で開催したところですが、令和7年度においても「国土強靱化実施中期計画」に基づく強靱な国土造りや地域活性化の機運の醸成を図るため、シンポジウムを開催する予定としております。

また、土木学会新潟会と共催の「親子工事見学会」、新潟地区、富山・石川地区における大学・高専の学生を対象とした「市民現場見学会」を毎年実施しているところです。学生の皆様に大規模な現場を見ていただくとともに、整備局様のご協力を得て、忌憚のない意見交換ができるよう、若手技術者との交流会も合わせて開催したところです。国土の保全(災害対応等)や地域づくりを担う社会資本整備と魅力ある建設産業への理解促進の観点、また、担い手確保の観点から、北

陸地方整備局様での具体的な取り組み、又はご提案などがございましたらお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

整備局のインフラ整備に関する業務を広く知ってもらうために、夏休みの期間中に「見学デー」を開催しています。昨年は7月30日に実施し、700名ほどの参加があった状況です。道路工事の現場などでは、残念ながら完成してからは、極めて当たり前のように通っていますが、この間の皆様方のご苦勞をきちんと説明できる機会があればよいと思います。現場をよいタイミングで学生や国民の方々にご覧いただくということもありますし、記録に残してそれを後々提供する方法もあると思います。DXの技術を活かして、お互いに知恵を出し合いながら、よい現場を土木工学科に進まれた学生や高校生だけではなく、一般の国民の皆さん方に広く知っていただく、あるいは、将来的に建設分野に興味を持っていただくようにしていくことが大事だと思っています。

東京の江東区豊洲の「ららぽーと」という施設に、「キッズニア」という子どもたちが職業体験をできる施設があります。私が家族と一緒にいったときには、土木の仕事を提供する会社はありませんでしたが、いろいろな業界の人たちが、連携してやるということがあってよいと思いますし、期待しているところです。また、よい現場をよいタイミングでご覧になっていただく共通の仕組みを考えなければならないと思っています。大きな事業をやっている中で、そういったところをツアーの形、あるいは、いわゆるインフラツーリズムの形として売り込むような取り組みを力を合わせてやっていければよいと思います。各地域にそういう場所をリスト化して、ご覧いただく仕組みを作り、より専門性を持って勉強されている方の知識を広めていただく、また、専門性のある分野に興味を持っていただくような取り組みができればよいと思っています。

昨年の3月に北陸技術事務所に「北陸インフラDX人材育成センター」が開所しましたが、新潟、富山、石川は東西に長いこともあり、北陸技術事務所の富山出張

所でも、昨年12月の下旬に新潟を離れて開催させていただきました。それぞれの地域の皆様方の近場でそういう取り組みができないかと検討しているところです。最先端の技術を皆様方と底上げをして、取り組んでいかなければならないと思っています。

(日本建設業連合会北陸支部長)

建設業の担い手確保は、技術者の確保と技能者の確保の両輪で推進しなければならぬと認識しています。日建連としては、技術者の確保に主眼を置いた現場見学会を開催しており、それなりの成果が上がり始めたことと認識しています。技能者の確保については各協力会社も高校や専門学校への出前講習の実施等、様々な取組を行っています。日建連会員会社の大きな工事を活用するなど幅を広げた現場見学会を行い、建設業の魅力を伝える取組により、技能者の確保を支援していきたいと考えています。日建連では建築も含めて活動していますので、しっかりと土木・建築両面でアピールしていきたいと思っています。また、採用するにあたって、建設DX関係の求人については多くの応募がありますが、現場の仕事となると中々難しいこともあります。「建設業界ではDXや機械化にも対応している」ということも含めてPRできればよいと思っておりますが、北陸支部単独では難しい面もあることから、本部と連携しながら対応していきたいと思っています。

担い手確保には、安全、安心な現場と処遇改善が必要不可欠ですので、引続き日建連としても全力で取り組んでまいりますので、ご指導をお願いいたします。

⑥日本建設業連合会等への要望について

(日本建設業連合会北陸支部長)

我々の業界は、社会を支える基幹産業であると自負しております。特に、北陸地域はそのウエイトが他の地域よりも高く、重要な産業であると認識するとともに、災害の多い地域でもあることから、地域の守り手として取り組んでいく所存です。北陸の活力ある地域づくりという観点から、日本建設業連合会または建設業界に

対して、ご意見、ご指摘、またはこうすべきではないかというお話がございましたら是非、お聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

昨年1月1日の能登半島地震以来、皆様方が地域の守り手、国土の守り手という分野を担われているということを実感できた大事な年だったと思います。一方で、これだけのたくさんの皆様方のおかげで、これだけの仕事をしていることを広く国民にお示しし、ご理解いただけているのかということに対して、不断の努力をしていかなければいけないということも事実だと思っています。

役所でいえばPR下手な部分もあり、例えば自衛隊の皆様方は広報という腕章をはめて、専属でやられている方がおりますが、一方で整備局は広報を置けるのであれば、その分の力を復旧に使う方がよいのではないかとあると思っています。日建連の皆様は、人の命を守る努力をされており、それを広く国民の皆様方に理解してもらえればよいと思っています。地震の際に様々な箇所でも復旧工事をしていただき、日建連のHPでも公表されたことと伺っています。例えば、日建連参加会員の皆様方はCMの枠組みをお持ちであり、皆さんが連携すべき部分もあってもよいのではないかと思いますし、一般の方が聞いても理解できるよう、(一社)日本建設業連合会と正式名称が使われた方がよいのではないかと思います。各県の建設業協会においては、ビズに〇〇県建設業協会というものを統一的に使われている事例もありますので、細かく気を遣いながら、建設業界だけではなく、国民の皆様方にご理解いただくような取組を常に意識をしながらやっていくことが必要です。手間はかかると思いますがきめ細かな取組をしていただいて、正確に世の中の皆様に伝わるような取り組みを先頭となって取り組んでいただければ、有難いと思います。首長の皆様方からは日建連の皆様方の活躍も含めて、非常に評価されている部分があると思っておりますので、あとは国民の皆様方の視点に立ってやっていくことが大事だと思っておりますので、引き続きよろしく申し上げます。

(日本建設業連合会北陸支部長)

我々の業界もPR下手の部分があると思いますが、CMを一生懸命流している会社もあることから、支部だけではなく日建連全体として取り組む必要があると思います。今回の震災対応については、支部でも一生懸命対応しましたが、本部でも災害が起こったときのマニュアル的なものとしても使えるよう、記録として整備を始めておりますので、纏まり次第、お示しいと思います。

建設業は災害復旧を含め、社会の基盤整備に頑張っているということをし、しっかりとアピールできるような取り組みを進めていき、建設業の重要性をご認識いただけるよう、しっかりと取り組んでいきたいと思ひます。

⑦災害対応について

(日本建設業連合会北陸支部長)

本年1月1日に発災した「能登半島地震」をはじめ、局地的な豪雨により、甚大な被害が発生したところ。近年多発しているこうした地震や局地的・集中的・激甚的な豪雨災害に備えていかなければなりません、大規模な災害に対応するための事前防災についてのお考えや新

たな取り組みについてお聞かせ下さい。

(北陸地方整備局長)

能登半島地震発災から早1年が経ちましたが、日建連の皆様とも上手く連携を図りながら、最初の啓開作業から現在まで進めてこられたと思います。その経験が、9月21日の大雨の際に活きて、1月の地震の際と比較しても迅速に対応できたと思います。北陸の道路啓開計画を年末に作りましたが、事前に顔が見えるような関係も作っておかなければならないと思ひますし、それをベースとした訓練も行い、迅速な道路啓開活動につながるような取り組み行動をしていかなければならないと思ひます。人命救助で大事なことは最初の72時間と言われており、その間にどれだけの道路啓開ができるかという事は非常に大事です。それを意識しながら事前の準備や訓練、さらには実際の活動つなげなければならぬと思ひます。また、冬期間については、今年度はこれまで降雪による車両滞留はありませんが、乗員保護訓練等も行っていくことが大事だと思ひます。

昨年は新潟県における複数の災害の周年を迎える年であり、「防災・減災に

いたプロジェクト2024」を展開しています。災害から時間が経過すると風化していくことにもなりかねませんので、常に関係機関と連携を図って訓練も行い、対処していくことが重要だと思ひます。また、そういったことを行っていることを、普段から広報していくことも大事だと思ひますので、引き続きよろしくお願ひします。

(日本建設業連合会北陸支部長)

災害対応は建設業の第一義との認識のもと、会員各社が連携して、今後とも災害復旧に確りと取組む所存ですが、今回の能登の災害は元日の震災プラス9月の豪雨災害が重なり、被災された皆様は正しく「心が折れる」状況であったと認識しています。そのような中で日建連の会員会社が復旧工事を行っていることが、国全体として復旧、復興に取り組んでいるとの認識、安心感を持っていただければ有難いと考へています。

事前の準備としては、災害が起きた場合の体制をしっかり作っており、この経験を風化させないよう訓練も行い、何かあったときにすぐに対応できるようにしていきたいと思ひます。能登半島地震の際は比較的スムーズに入ることができましたし、豪雨災

令和6年能登半島地震の初動対応(令和6年1月1日発生)

本省との情報共有(web会議)



災害対策本部会議



災害対策本部会議

TEC-FORCEの派遣



TEC-FORCE派遣し被災地方公共団体を支援

本格的な復旧・復興に向けた体制



業者等との現地打合せ



被災状況確認



点検状況

北陸地方整備局の初動対応(9月21日からの豪雨災害)

災害対策本部会議



WEBによる関係支部合同の災害対策本部会議

TEC-FORCEの派遣



先遣調査班派遣による被災地方公共団体支援



ほくりく号による被災状況調査

TEC-FORCE活動 令和6年9月21日からの豪雨災害の支援

リエゾン



関係機関との協議(石川県庁)

害についても国交省様からの指示により、地震災害の枠組みで動いたことが、初動時に迅速に対応できた要因となりました。

(北陸地方整備局長)

現地にお住まいの皆様方からすると、日建連や関連企業の皆様方がいる中で、我々の名前を見てもらうだけでも、地元の人たちが頼りにし、安心できる存在だということを知っています。すれ違うときに挨拶をするだけで、地元の皆様方は明るい気持ちになり、頑張ってくれている人がいるのだという気持ちになるということを知っています。一つ一つのことが地元の皆様方にとっては非常に頼りになるのだと思ひています。

(日本建設業連合会北陸支部長)

「道路建設」という雑誌に寄稿した際の現場職員へのヒアリングで聞いた話ですが、被災地域の方々から我々に対して、「本当に復旧・復興頑張ってくれてありがとうね」という言葉をかけていただきました。発災当初は不眠不休で作業をしていましたが、「頑張ろう」というエネルギーの源になったということを知っています。お

道路の被災状況調査



被災状況を調査(輪島市)

互いにコミュニケーションをとり、よい関係を築いた上で復旧・復興にしっかりと取組んでまいります。

⑧おわりに

(日本建設業連合会北陸支部長)

最後になりますが、整備局様から情報提供や日建連へのご要望とかがございましたらお聞かせください。

(北陸地方整備局長)

既にご覧いただいていると思ひますが、12月中旬に北陸の元気を支える建設業の未来創造アクションプラン「北陸けんせつミライ2025」をまとめており、色々なご意見等があればそれに応えていけるような形にしたいと思ひています。「適正利潤の確保」、「変わる待遇・働き方」、そして「未来につながる建設現場」ということを3つの柱としています。「北陸けんせつミライ2024」で取り組んだものを、地域にとつてうまく進められるような形で見直しています。

例えば、土日現場閉所については、厳格に進めてきましたが、現場条件が厳しいこともあり、柔軟さを盛り込みながら、来年度に向けて進めていきたいと思ひてい

給水支援



給水機能付散水車による給水支援(珠州市)

ます。もう一つは、直轄事業だけではなく、公共のセクターに広げることによって、地域の建設業の皆様方の魅力ある現場ということにつながる取組と、さらには民間に向けた取組を進めていけるよう、展開しているという状況です。

これによって直ぐに変わるということにはならないかもしれませんが、北陸地方で共に活躍していただいている日建連の支部の皆様方を中心として、担い手の確保や育成につながればよいと思ひますので、取組を進めていくうえで、引き続きのご協力をお願いします。

(日本建設業連合会北陸支部長)

「北陸けんせつミライ2025」については、その方針に則り進めていくことが、お話のあった問題や生産性向上につながると思ひますので、整備局様と足並みを揃えて取り組んでまいりますので、引き続きご指導をお願いいたします。

本日ご指導、ご提案いただいた事項につきましては、来年度の日建連北陸支部の活動に反映して、活かしていきたいと思ひますので、引き続きご指導、ご支援賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

日建連北陸支部会員の 能登半島における活動経過報告

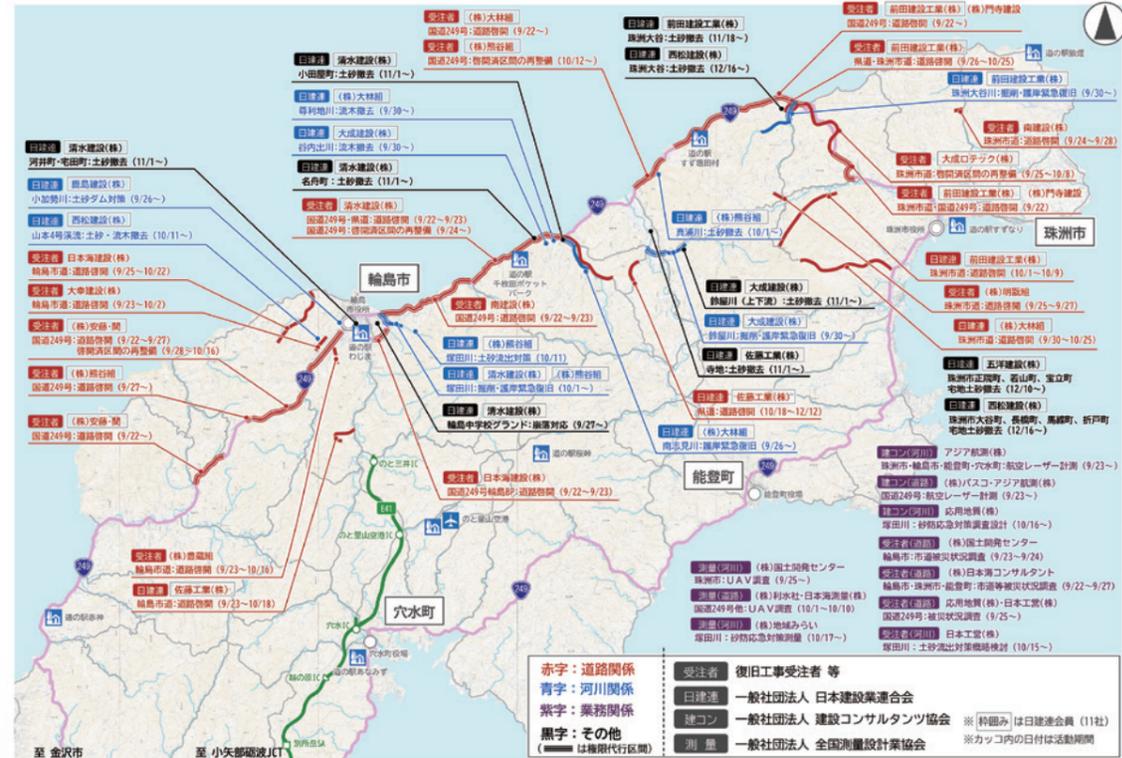
日建連北陸支部は令和6年1月1日に発災した「令和6年能登半島地震」の緊急対応を進めてきましたが、9月21日に能登半島を襲った線状降水帯による大雨により、これまで作業を進めてきた応急復旧箇所や新たに河川・道路・宅地にも甚大な被害が発生しました。日建連北陸支部では北陸地方整備局の要請を受け、発災以来、道路啓開、護岸復旧、河川の流木及び土砂撤去、砂防事業、地すべり対策、海岸事業、港湾事業、宅地の流木及び土砂撤去などの復旧作業を鋭意進めています。

協定による
対応企業

(株)安藤・間、(株)大林組、鹿島建設(株)、(株)熊谷組、(株)鴻池組、五洋建設(株)、佐藤工業(株)、清水建設(株)、大成建設(株)、飛鳥建設(株)、西松建設(株)、(株)フジタ、前田建設工業(株)

国との契約や災害協定で対応頂いている企業

【令和6年9月21日からの大雨による災害】
R6.12.23現在



資料提供：北陸地方整備局

大雨による河川の被害状況



塚田川
人家流出・流木阻害

釜屋谷川
河道閉塞

輪島市町野地先
土砂ダム発生

河原田川



河岸侵食



応急復旧完了状況(10.6)

中屋トンネル



坑口で土石流発生 土砂堆積



八世乃洞門



坑口部 倒木・斜面崩落



輪島市山本地区



宅地 土砂堆積状況



会員会社提供

「令和6年能登半島地震」における災害対応に対して、対応に当たった日建連北陸支部会員に感謝状が授与されました。

石川会場 令和6年11月8日(金)

受賞者

(株)安藤・間、(株)熊谷組、(株)佐藤工業、清水建設(株)、飛島建設(株)、(株)フジタ、(株)北都組、前田建設工業(株)、三井住友建設(株)

新潟会場 令和6年11月11日(月)

受賞者

あおみ建設(株)、(株)植木組、(株)大林組、(株)大本組、(株)加賀田組、鹿島建設(株)、五洋建設(株)、大成建設(株)、大成ロテック(株)、東亜建設工業(株)、東急建設(株)、東洋建設(株)、戸田建設(株)、西松建設(株)、(株)NIPPO、(株)福田組、(株)不動テトラ、(株)本間組、みらい建設工業(株)、りんかい日産建設(株)、若築建設(株)



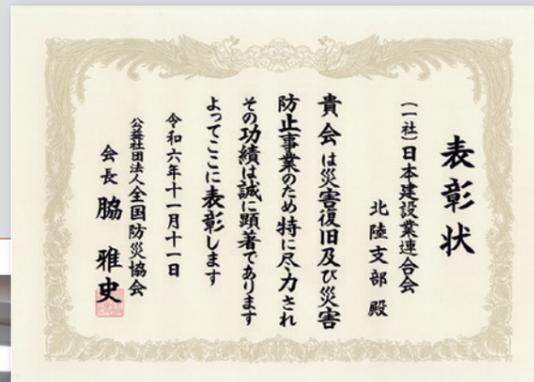
【石川会場】



【新潟会場】

「令和6年能登半島地震」における災害対応に対して、被災地の復旧に寄与した功績が認められ、日建連北陸支部は、公益社団法人全国防災協会より「令和6年度災害復旧及び災害防止事業功労者表彰」を受賞しました。

表彰式には北陸支部の木村淳二支部長が出席しました。
令和6年11月11日(月) 砂防会館別館



親子工事見学会

開催日 令和6年7月30日(火)

見学先 大河津資料館、にとこみえーる館、大河津分水路新第二床固I期工事、大河津分水路山地部掘削工事

- 発注者：国土交通省北陸地方整備局
- 施工者：鹿島建設株式会社、株式会社植木組
- 参加者：小学生(高学年)と保護者

新潟平野を守る大河津分水路の整備を通じて社会資本整備の重要性を理解していただきました。また、子供たちは未来も建設業に夢を感じていました。

(アンケート結果より)

大河津分水路の歴史を学びました



VRで未来の建設業を体験



令和の大改修をVRを使って見学しました



重機の操作に大興奮



来年も参加したいとの声がありました



市民現場見学会

富山・石川地区

目的

建設系学生に対して、建設業界のやりがい魅力を発信・理解していただくために毎年市民現場見学会を開催。大規模な現場を実際に見ていただくとともに、発注者・施工者の若手技術者との交流会を通じ、より理解を深めていただくために開催。

開催日 令和6年8月27日(火)

見学先 利賀トンネル(1工区)工事

- 発注者：国土交通省北陸地方整備局
- 施工者：清水建設株式会社
- 参加者：金沢大学大学院生(地球社会基盤額専攻)

当日の流れ

- ・国土交通省北陸地方整備局利賀ダム工事事務所による利賀ダム事業概要説明(展望台)
- ・利賀トンネル(1工区)現場説明・見学(説明者：清水建設 福嶋所長(金沢大OB))
- ・利賀ダム工事事務所、施工者(清水建設、大成建設、前田建設工業)の若手職員との交流会(となみ散居村ミュージアム)



トンネル切り羽の見学



若手技術者との交流会



発注者の事業概要説明

学生の感想

■ 現場の感想

- ・初めて実際の現場トンネル工事の中にはいることができとても貴重な体験

■ 交流会の感想

- ・仕事の熱意や夢中になっている様子、姿勢が心を打った
- ・仕事が大変でも楽しんで臨んでいる人の話は私に憧れを抱かせてくれた
- ・答えにくい質問でも裏事情まで教えてくれた非常に貴重な機会
- ・上下関係、給与のことなど疑問に思うことを聞いて身になる時間

■ 不安な点

- ・転勤の有無、頻度、休日、ワークライフバランス、給与、残業時間

■ 建設業界への期待

- ・BIM/CIM技術を駆使した設計や維持管理、システムの構築
- ・DX・AIの活用
- ・防災対応

引率教諭の感想

普段見れない重機や切羽を目の前にし、進行中のリアルな現場を体験できて良かった。

3Dモデルなど先端技術を活用されているところを実際の現場を前に見聞きできて良かった。

北陸地整さんから、北陸地域で進行中のプロジェクトや近年注力されていること(AIやIoTの活用など)なども伺いたい。

市民現場見学会

新潟地区

開催日 令和6年9月25日(水)

- 参加者：新潟大学、長岡技術科学大学、長岡高等専門学校

- 交流会参加者：北陸地方整備局、新潟県、新潟市、安藤ハザマ、大林組、鹿島建設、五洋建設、清水建設、大成建設、西松建設



見学先 松浜雨水ポンプ場調整池工事

- 発注者：新潟市
- 施工者：安藤ハザマ、機動建設工業、秋葉建設興業、小菅建設興業 特定共同企業体

事業概要

雨水ポンプ場とは、地盤の低い地域で自然流下によって水路や河川に排水できない雨水をポンプで揚水し、排水する施設です。調整池とは、大雨のときに雨水を一時的に貯留し、少しずつ排出することで河川の氾濫を防ぐための施設です。アスファルト舗装範囲が増えたことで雨水が地中に浸透しづらくなるほか、近年増加している局地的豪雨では、下水道の処理能力を超えることも少なくありません。そのため、雨水ポンプ場調整池は、雨水の氾濫から住宅地を守るたいへん重要な施設です。本工事は、新潟市北区松浜みなと地内に築造する雨水ポンプ場調整池のうち土木工事(地下構造物)を行うものです。



見学先 鳥屋野・万代・下所島排水区雨水バイパス管下水道工事

- 発注者：新潟市
- 施工者：西松建設、大豊建設、植木組、池井組 特定共同企業体

事業概要

本工事は、新潟市中央区幸西から鏡西までの2.36km区間に複合式シールド工法にて雨水対策設備のバイパス幹線管路を新設する工事です。当該排水区には新潟駅及びその周辺の商業・業務施設や住宅地が密集しており、豪雨時にこれら都市機能の確保、浸水被害の軽減のため、雨水バイパス管(最大で1時間約50ミリメートル、概ね10年に1回発生する降雨対応)の整備等を行います。



「現場から頼られる女性技術者を目指す」



けんせつ小町
KENSETSU-KOMACHI

「けんせつ小町」は建設業で働くすべての女性の愛称です。建設現場で働く技術者・技能者、土木構造物や建物の設計者、研究所で新技術を開発する研究者、お客様とプロジェクトを進める営業担当者、会社の運営を支える事務職など、活躍の舞台は多岐にわたります。



大林組 北陸支店
土木工事部工事課
源川 珠望
Tamami Minagawa



Q 建設業界を目指したきっかけ

A 小学生のときに中越地震を経験し、身近で復旧作業が行われていたことが建設業に興味を持った最初のきっかけです。地震で崩壊した道路や構造物が元通りにきれいになっていく様を見ながら、その技術力と協力して現場を進める姿が印象に残っており、その後土木科がある学校に進学しました。学生時代には、改めて建設業が持つ社会的な役割や責任の重要性を感じ、私も将来その一員となり、地域の復興や社会に貢献できるものづくりをしたいと思うようになりました。

Q これまでの経歴と現在の業務・やりがいについて教えてください

A これまでは台湾のLNGタンク基礎の設計を行う部署や、ICTツールを現場へ導入・運用をサポートする部署、本部の方針を決定し各本支店へ指示や情報提供等を行う部署で業務を行ってきました。建設業界および会社の変遷を身近に感じる環境で、本部方針や目標値、それに対する具体的な施策や使用するシステムまでを全国各地の現場へ伝える仕事をしてきたため、幅広い知識と人脈を得ることができました。当時コロナ渦というこ

ともあり、直接コミュニケーションが取れないなかでの説明や問合せ対応などは苦勞するときもありましたが、現場から各本支店、本部まで様々な視点から物事を考えられるようになりました。

これらの経験を生かし、現在は現場支援を行う部署に所属し、現場が円滑に稼働できるよう現場ノンコア業務の支援や環境・品質・安全の確認、現場に役立つ情報の収集・発信を行うなど様々なサポートをしています。初めは何をしたら現場の役に立っているのか迷うことがありましたが、上司と一緒に現場に出向きながら、徐々にやるべき仕事が見えてきました。これまで培ってきた自分の得意分野も活かして現場に役立つことを考えたり、上手くいかなかったときは原因を探ったりと試行錯誤しているときも仕事のやりがいを感じますが、やはり現場職員から「助かった」の一言をもらえたときは一番やりがいを感じます。直接現場の出来高には関係ないかもしれませんが、現場を後ろから支える立場として日々の業務に取り組んでいます。

Q 女性技術者から見た近年の建設業界の変化

A 建設業界で働く女性技術者が年々増加していることで、女性技術者同士のつながりや得る機会が増え、日常業務のことから働き方、将来のキャリアについてまで情報共有や相談がし

やすくなったと感じます。入社当時は身近に相談できる女性技術者が少なく、仕事の悩みを相談したり将来について考えたりすることが難しいときがありましたが、今では定期的に意見交換会や現場見学会など開かれ、経験豊富な女性技術者から同世代の女性技術者まで交流を持てるようになりました。

また、当社でも女性の現場所長や管理職が増え、業務の方針や福利厚生、組合活動などに女性技術者目線の意見も多く取り入れられるようになりました。そうした中で将来のキャリアイメージが広がり、10年後20年後の仕事や働き方について具体的に考えることができるようになりました。1人で考えるだけでなく、多くの先輩方に相談に乗っていただけることも大変有難く感じております。

Q 女性に建設業を選んでもらうには

A 建設業界は女性も働きやすい環境へ変わってきていますが、まだまだ世間のイメージは昔の「3K」のイメージが強いと感じます。イメージを変えていくには、従来行われている現場見学会やセミナーがより多くの人目に留まるように、プログラムや開催形式を工夫し、建設業界への入り口を広げることが大切だと思います。

また、学生に対してのアピールも女性に建設業を選んでもらう

上で効果的だと思います。

北陸支店に赴任してから学生のリクルート活動に携わる機会が増えましたが、女性が建設業界で働くことに対する不安や質問を受けることがとても多いです。このけんせつ小町の特集のように女性技術者が活躍していることを知っていただける機会を積極的に活用し、女性が建設業界で働くことに対する抵抗感を減らすことで、今より多くの女性技術者が活躍する未来になると思います。

Q 未来のけんせつ小町への思い・メッセージは?

A 他の業界に比べまだまだ女性が少ない業界ですが、確実に女性の働きやすい環境へと変化していると思います。私自身、はじめは建設業界で働くことへの不安な気持ちもありましたが、実際に入ってみると働きやすい環境や女性技術者同士のつながり、建設業界全体が技術力の向上や若手技術者の育成に力を入れていると感じ、不安だった気持ちは徐々にやる気へと変わっていききました。

高い技術と創造力で社会基盤を支える建設業界を、女性技術者ならではのきめ細やかな視点やアイデアを活かし、ともに盛り上げてくれたら嬉しいです。



R3・4羽越管内舗装修繕工事

株式会社 杉本 海斗 | Kaito Sugimoto

工事概要・目的

本工事は、日本海東北自動車道の仲間町地区・天神岡地区および国道7号線の上野地区・檜原地区において傷んだ道路(アスファルト舗装)を路面切削機にて切削をし、アスファルト舗装によりオーバーレイをする工事でした。

村上地域を縦断する日本海東北自動車道および国道7号は、新潟県と山形県を結ぶ重要な幹線道路であり、物流の大動脈としてくらしの発展に寄与しています。

近年激甚化している災害が頻発していることから、生活を支える重要インフラの機能回復・強化を行うことで、災害時の避難や救助、迅速な復旧・復興に不可欠な交通ネットワークの確保を目的とし、道路(舗装)修繕を行いました。



[仲間町地区]完成



[上野地区]完成



[天神岡地区]完成



[檜原地区]完成

現場特性

日本海東北自動車道において、予定期間の夜間における通行止め規制を実施して行う集中工事で複数の他事業者の施工や調査が同時に行われました。弊社は、各業者が安全に作業を行えるように、走行・入退出の共通ルールを制定し、工程調整会議を開催、共通ルールの取り決めを行い、交通規制(通行止め)の総指揮、7つのインターチェンジの通行止め規制を行いました。日東道集中工事中は、日々の作業前に各工業者に集会していただき、日々の作業打合せ・調整を図り、遅延なく無事故・無災害で工事が完成しました。

また、施工日も真夏日であったことから、本工事協力業者の熱中症対策を充実させ、車載式移動休憩所やAED安全講習等を行いました。

【計7カ所の点在型通行止め規制とクリア完了の時間制限】



現場の中での自分の役割・現場を経験して・学生へのメッセージ

本工事での私の役割は、現場代理人として現場の安全管理に従事し、発注者や官庁・警察・道路管理者等の関係機関との綿密な安全打合せを行い、日東道集中工事および国道7号の施工を無事故で現場完成させることができました。

無事故で現場完了できたのも、協力業者の方々の手厚い協力があったことでした。時には意見のぶつかり合いもありましたが、対話を繰り返していく中で絆も生まれ、今でも思い出に残っている現場のひとつです。

施工管理では品質やコスト、工程等の様々な項目に対する適切な管理が要求されますが、私はこの現場を通して、なによりも現場の安全が第一だと感じました。

建設業は、社会貢献や人の役に立つモノを造る「やりがい」もありますが、なによりも協力業者や地元の人々から現場が終わった時に、「ありがとう」と感謝の言葉をかけていただけるのも「やりがい」であり、魅力のひとつです。

ぜひ私たちと一緒に建設業で働いてみませんか？

若手技術者の現場紹介



国道8号剣野地区舗装工事

株式会社 寺田 哲也 | Tetsuya Terada



柏崎バイパス事業概要

国道8号は、新潟と京都を結ぶ幹線道路で、柏崎圏域においてもほかの国道を結ぶ骨格道路として重要な道路です。しかし、柏崎市街地では慢性的な交通渋滞が発生しています。

柏崎バイパスは交通混雑の緩和と道路ネットワークの強化を目的とした柏崎市大字長崎～同市大字鯨波間の延長11.0kmのバイパス事業です。

事業の目的

・柏崎市街地の走行環境の改善
走行速度が向上し、通勤や物流の円滑化に寄与します。柏崎市街地における渋滞の解消に寄与します。

・災害時における交通の確保
平成19年新潟県中越沖地震では、柏崎市内で最大震度6強を観測しました。国道8号をはじめとする道路で甚大な被害が発生した中、柏崎バイパスの開通区間が迂回路として効果を発揮しました。
柏崎バイパスの全線整備により、安全性や代替機能の向上が期待されます。

工事概要・現場特性

本工事は柏崎バイパス事業の、城東交差点～柏崎トンネル間の舗装新設工事です。

未供用部の施工だけでなく、工区内に県道及び市道との交差点が2箇所あり、バイパス構築に合わせて現道の嵩上げ・高下げが必要な工事でした。両交差点を同時に交通規制しながらの施工では日々の交通規制設置・撤去と毎日10人以上の交通誘導員の確保に苦労しました。

また、本工事は同事業の工事用通路としての役割も果たしていた為、工事連絡会会長として他社との工程調整も行っておりました。

施工に関してはICT舗装工に取り組み、供用時期が決まっていた中、工程短縮・生産性向上に努めました。

現場の中での自分の役割・現場を経験して・学生へのメッセージ

本工事での私の役割は、現場代理人として現場の安全管理、工程管理、出来形・品質管理、発注者や県・市・警察等関係機関との対応など多岐に渡ります。私一人では対応しきれない部分がある為、社内・社外の方々と協力して現場を進めました。

現場を経験して、多くの人と関わりながら働いていると実感しました。助け合い、時には意見をぶつけ合いながら迎えた開通式は、達成感がありました。供用後、続々と一般車が走行している道路を見ると嬉しく思います。

夏の暑い日も、冬の寒い日も現場は動く為、楽な仕事ではありません。しかし人の役に立つモノを造り、完成した時の達成感はとても大きいです。現在建設業は技術の進歩で働きやすさが向上し、今後も良くなっていきます。

ぜひ私たちと一緒に建設業で働いてみませんか？



新潟市方面より柏崎バイパス(鯨波方面)を望む



祝 国道8号柏崎バイパス(城東～鯨波)開通

MY 私の PRIVATE TIME



(株)熊谷組 北陸支店
執行役員 支店長
木下 剛
Tsuyoshi Kinoshita

「生まれも育ちも北陸人」

<p>令和6年4月より、弊社北陸支店長を拝命いたしました。北陸支店は当社発祥の地福井県から新潟県までを営業範囲としています。なお、現在も福井市には当社福井本店があります。北陸支店は、弊社社内では一番歴史のある支店となっております。</p> <p>平成2年の入社以来、建築の現場一筋で、今では大きな声で言えませんが昼夜・土日を問わず仕事をしてきたので、これといった趣味も無く、しいて言えば50歳位まで毎週日曜日に早朝ソフトボールくらいでした。</p> <p>40歳を過ぎたころ、少し体を鍛えようと先に入会していた家内と同じスポーツジムに入会しました。毎日少しずつ走る距離や挙げるバーベルの重さを増やしていき、単身赴任の時なども住むところを決めるときに必ずスポーツジムが近くにあるか確認するようにまでなり</p>	<p>ました。それ以来、時間が許す限り週に3回は通っています。主に、スタジオでのバーベルを使った筋肉トレーニングとランニングを行っています。5年前に頑張りすぎて椎間板ヘルニアになってしまい、それからはあまり無理をしないように心がけています。</p> <p>また、走ることも楽しくなりフルマラソンにも挑戦し、さすがに4時間は切れませんが、あわてず同じピッチで走り続けることは日々の生活や仕事の業務にも精通していると感じました。洋服の採寸時にお店の方からは「ジムに行かれていますね」と言われて少しうれしくなったりもします。</p> <p>ただ、支店長になってからは夜や週末のお付き合いも多く、なかなか行く時間が減っている今年冬の冬はがんばろうとひそかに思っています。</p> <p>また、大相撲を見るのが好きで、福</p>	<p>岡の九州場所以外の3会場には年2回程度観戦に行っています。弊社は佐渡ヶ武部屋と古くからお付き合いがあり、2020年から2023年までの本社勤務時には琴奨菊の引退式や佐渡ヶ武部屋の打上げパーティーに参加させていただきました。今は、琴櫻が横綱になることを一番望んでいます。</p> <p>実家の家業が福井県で建設業を営んでいたことや、福井での弊社の建築工事を見て育ち入社して36年になろうとしています。今後も能登震災の復旧・復興や発祥の地の発展を建設事業を通して少しでもお力になればと思います。先輩方が創られた伝統もしっかりと受け継ぎ、建設業界のさらなる発展にも寄与できればと思います。今後ともどうかよろしくお願いたします。</p>
--	---	---



能登半島地震を踏まえ、防災・減災に向けた地域づくりを考える

2024年12月12日開催されました(国土政策研究会主催)北陸地方シンポジウム2024 パネルディスカッション「過去の災害や令和6年能登半島地震を踏まえ、建設業界が目指すべき、果たすべき方向性を探る」に木村支部長がパネラーとして参加し能登半島地震での日建連の対応・その後の豪雨災害での対応について説明しました。



講演会プログラム

・開会挨拶	近藤 淳	(一社)国土政策研究会理事
・来賓挨拶	高松 諭	北陸地方整備局長
・第1部 安全・安心でWell-beingな社会へ	谷口 博昭	(一社)国土政策研究会会長
・第2部 基調講演	大塚 悟	長岡技術科学大学教授
・第3部 パネルディスカッション	大塚 悟 木村 淳二 齋藤 奈々子 中市 勝也 信太 啓貴	長岡技術科学大学教授 (一社)日本建設業連合会北陸支部長 (一社)新潟県建設業協会 (一社)石川県建設業協会副会長 北陸地方整備局企画部長
・閉会挨拶	木下 賢司	(一社)国土政策研究会専務理事 (敬称略)



BACK STAGE 編集後記

2025.3

77

2024年は元日に能登半島地震が発生し、未だ復旧復興の途にあります。さらに能登半島では9月下旬にも豪雨災害にみまわれ多くの土砂崩れや浸水被害が発生しました。発生直後から関係者が現地に乗り込み、現在も懸命に復旧作業に当たっています。

自然災害は能登に限らず私たちが暮らすすべての地域においていつ起きても不思議ではないことを今一度自覚しなければなりません。主要インフラの整備だけでなく官民連携して地域住民の安全安心を確保するための防災・減災対策はもはや最優先事項となっています。

災害キットの常備や避難場所経路の確認、家族や身近な人との連絡方法など個人個人が「自分の身は自分で守る」という意識で日常生活を送りたいものです。

(津川 圭一 記)

【9月下旬豪雨災害直後の状況】



五里分橋の被害状況



県道の被害状況

広報委員会スタッフ

委員長	東峰 裕之(五洋建設)
委員	岡崎 豊彦(熊谷組) 伊藤 恒治(安藤・間) 阿部 伸昭(植木組) 大川 祥功(大林組) 中本 章陽(大本組) 北原 章広(鹿島建設) 信清 孝樹(五洋建設) 久保田雄彦(清水建設) 小林 恵一(銭高組) 上田 進(第一建設工業) 長谷川正人(大成建設) 横山 聡(東亜建設工業) 津川 圭一(フジタ) 涌井 卓(前田建設工業) 工藤 悟(若葉建設)
事務局長	三澤 正人 (日本建設業連合会北陸支部)